

各 位

公益財団法人 大同生命国際文化基金

**翻訳出版事業「アジアの現代文芸」シリーズ
の電子書籍化について**

公益財団法人 大同生命国際文化基金（大阪市西区江戸堀1-2-1 理事長：喜田哲弘）が公益事業の一つとして行っております翻訳出版事業「アジアの現代文芸」シリーズについて、大同生命保険株式会社の創業110周年記念事業の一環として開始する電子書籍化の概要を以下のとおりお知らせします。

記

1. 「アジアの現代文芸」シリーズについて

アジア諸国の現代文芸のうち、わが国への紹介が望まれる作品を翻訳・出版する事業で、アジアの国々の今日の姿をそれぞれの国が生んだ文芸作品を通じて理解することを目的としています。

本事業は営利を目的とせず、財団自らの手で翻訳・出版にあたるもので、企業財団として他に例のない事業として取り組んでまいりました。

当財団が創設された翌年の1986年から始め、2011年度末現在12ヵ国、58点の作品を出版しています。出版した作品(出版部数2,500部)は全国の大学、国公立図書館等に寄贈しています。

2. 電子書籍化について

「アジアの現代文芸」シリーズは、全国の大学、国公立図書館等に寄贈し、市販は行っていないため、これまでは図書館で読むか、借り出して読んでいただく以外これらの作品が、読者の目に触れる機会がありませんでした。

そこで、25年以上をかけて出版してきた58点の作品、また、これから新たに出版する作品が、より多くの文学ファンの目に触れるよう、大同生命保険株式会社の創業110周年記念事業の一環として、印刷書籍の出版と並行して、既刊・新刊の電子書籍化を進めてまいります。

アジア諸国との交流が深まり、関心が高まる中で、これらの作品に親しむ機会を通じて、アジアの人々の社会、生活、慣習、思考などとともに、その背後にある歴史、宗教観や風土にまで、思いを広げて理解していただく一助になれば幸いです。

電子書籍は当財団のHP上で公開(無償)いたします。

(1) 2011年度までの出版作品については、著作者・翻訳者の許諾が得られたものから順次電子書籍化します。

第一陣として以下の5作品(作品紹介は3ページをご覧ください)を8月29日から当財団HP (<http://www.daido-life-fd.or.jp/>)上で公開(無償)します。

- ①「農園の日差し」(ベトナム) —2000年9月出版—
著者：タック・ラム 訳者：川口 健一
- ②「敗者の勝利」(タイ) —2004年12月出版—
著者：セーニー・サオワボン 訳者：吉岡 みね子
- ③「山の麓の老人」(マレーシア) —2005年3月出版—
著者：アジジ・ハジ・アブドゥラ 訳者：藤村祐子/タイバ・スライマン
- ④「ビールーの少年時代」(インド) —2006年11月出版—
著者：クリシュナ・バルデーオ・ヴァイド 訳者：長崎 広子
- ⑤「幻想の国」(タイ) —2009年9月出版—
著者・M.R. ニミットモンコン・ナワラット 訳者：吉岡 みね子

<参考>「アジアの現代文芸」シリーズ国別出版作品数(2011年度末現在)

| | |
|---------|----------|
| インド | 7点 |
| インドネシア | 5点 |
| カンボジア | 2点 |
| スリランカ | 2点 |
| タイ | 15点 |
| パキスタン | 9点 |
| バングラデシュ | 2点 |
| フィリピン | 1点 |
| ベトナム | 3点 |
| マレーシア | 4点 |
| ミャンマー | 7点 |
| ラオス | 1点 |
| 合計 | 12カ国 58点 |

(2) 2012年度以降出版の作品については、印刷書籍と同時に電子書籍を出版します。
2012度は以下の2作品を出版します。

- ①「時の終焉」(スリランカ) —9月初旬刊行予定—
～20世紀前半のスリランカ地方貴族一家三代の栄枯盛衰を描く三部作の第三部～
著者：マーティン・ウィクラマシンハ 訳者：野口 忠司
- ②「現代タイのポストモダン短編小説集」(タイ) —12月初旬刊行予定—
～タイのポストモダン文学の旗手プラープダー・ユンなど6作家の作品を収録～
著者：プラープダー・ユンなど6作家 訳者：宇戸 清治

照会先：公益財団法人大同生命国際文化基金 事務局 (北迫)
電話 06 (6447) 6357 / Fax 06 (6447) 6384

(1) 農園の日差し(ベトナム)

本書には、ベトナム近代文学を代表する作家の一人であるタック・ラムの短編小説12編と評論4編が収録されています。タック・ラムは「生きる」ということ、そして生きるということへの「覚醒」を追求した作家です。「ただ単に食べて眠り、遊ぶだけなら、その生き方には何の貴さもない。人生に必要なのは内面の生き方、魂の生き方である」と語り、小説は“人生を精神面でより充実したものにするためにある”という文学観のもとに執筆を続けました。本作品は、ベトナムがまだフランスの植民地だった時代に書かれたものですが、個々の作品からは、現代にも通じるものを十分感じとっていただけることでしょう。(原作年 1937～1942年)

(2) 敗者の勝利(タイ)

本作品の特徴は、文学作品としての深い味わいのほかに、著者セーニー・サオワポンが目にした1940年代の満州における異国の人々の人生と社会が文学として表現されているところにあります。登場人物を通して「人間」と「愛」という普遍的なテーマを取り上げながらも、満州国における利権をめぐる当時のきな臭い国際情勢も描写しています。物語は1939年のノモンハン事件直後、上海から始まり、奉天、ハルビン、大連と戦前の満州国の地で展開されます。満州国をめぐる当時の国際政治の動きを巧みに組み入れた展開は、それまでのタイの小説には全く見られなかったものです。(原作年 1944年)

(3) 山の麓の老人(マレーシア)

父子の相克と軋轢から生じた悲劇を描いたこの作品は、出版と同時に大きな反響を呼びました。阿吽(あうん)の呼吸でコミュニケーションを行う老夫婦の様子やマレーシアの伝統的、典型的なカンポンの生活様式、熱帯雨林の動植物の様子などが臨場感豊かに描かれています。登場人物の数は少なく、描かれる自然はボンスー山を囲むジャングルに限られていますが、読者にはまるでドラマを見ているような印象を与えます。(原作年 1982年)

(4) ビールーの少年時代(インド)

著者のクリシュナ・バルデーオ・ヴァイドは英文学の影響を受け、その洞察力や文体、表現力はヒンディー作家の中でも高く評価されています。この作品は、傷つきやすい少年の目を通して、インドの家族の生活が繊細なタッチで見事に表現された著者の代表作です。家族のあり方、嫁姑の問題、家庭内暴力、恋愛などといった身近な問題が詳細に描かれています。(原作年 1957年)

(5) 幻想の国(タイ)

1932年、タイは専制君主制から立憲君主制へと移行し、13世紀以来の国の政体が一変するという事態に大きく揺れていました。本作品は、その変革の背後で権力闘争に翻弄され、人間としての生存と尊厳を奪われた一人の政治犯を主人公とするものです。主人公のモデルは、謀反の容疑で投獄された作者ニットモンコン自身であり、物語には彼の人生そのものが描かれています。彼は本作を通じて理想の国家、科学、教育の重要性と尊さを訴え、タイの未来を担う若者に、自国の真の発展と繁栄を託しました。(原作年 1946年)